

2009 AUTOBACS SUPER GT 第7戦 FUJI GT 300km RACE

2009年9月12日(土)～9月13日(日)

RACE REPORT



2009 SUPER GT シリーズも後半戦。第2戦に続いてシリーズ2度目となる富士決戦が始まる。苦い経験となった鈴鹿から僅か3週間足らず、地元富士での再出発を目指し、厚木のファクトリーでチームは作業を進めた。想いは一つ、地元 富士で何が何でも「R&D SPORT LEGACY B4」を決勝レースデビューさせること。9月11日(金)、鈴鹿のレース終了後からチームによる不眠不休の作業を終えたマシンは、富士スピードウェイに搬入された。

9月12日(土) 観客数:24,000人 / 天候:雨
＜練習走行＞

練習走行に向けた最後のマシンチェックを行うチームスタッフ。8時過ぎから降り始めた雨によりウェットコンディションでのスタートとなる。そして9時05分練習走行開始。



まずは山野がマシンに乗り込みPITを後にする。前回トラブル後、初めてのサーキット走行である。メカニック、エンジニアは、TV モニターに映るマシンを食い入るように覗き込む。マシンは1周でPITに戻り、メカニックによるマシン各部の状態チェック。そして山野は再びコースへ向かい、徐々にタイムを上げる。3周目に2分00秒426をマーク、300クラストップタイムからは5秒以上の差がある。ステアリングが反応しない。かなりのアンダーステア状態だった。次の周で山野は一旦マシンをPITに戻した。しかし、ここでトラブルが発生、リアのデフBOXからのオイル漏れである。20分程で応急処置を施し、ドライバーも密山にチェンジ、再びコースへとマシンが向かった。応急処置の間にセッション開始前には止んでいた雨が再び降り始め、



www.rdsport.net

アンダーステアの影響もあり思うようにタイムが上がらない。密山も3週の周回で一旦PITにマシンを戻すが、ここで、再度デフのオイル漏れを修復、その後再びコースへ戻り周回をこなした。

最後は、残り6分で山野がコースに向かうも、1周目の最終コーナー手前でスピン。大事には至らなかったものの、その後1週の周回のみで時間切れ、思うような走りが出来ないまま午後の予選に向かう事となった。午後の予選までにリアデフにオイル漏れ対策を施すのは問題なさそうだが、ひどいアンダーステアについては、十分なテストが出来ていない現状ではどうセッティングするか難しい状況だ。

<予選1回目>

午前中からの天候は変わらず、コースコンディションはウェット、12:50 予選がスタートした。まずは山野がマシンに乗り込みアタックに入る。3周目、マシンを戻した。ここで、ドライバーを密山にチェンジ、密山は3周目に2分1秒059をマーク、予選通過基準タイムをクリア。マシンをPITに戻した。13:15 300クラスによる専有走行の予選が開始された。山野が再びマシンに乗り込みタイムアタックに向かう。しかし、アンダーステアがひどく、曲がらないマシンでは満足にアタックする事が出来ない。山野は1周のみのアタックでマシンをPITに戻し、5分の時間を残して予選を終了させた。300クラストップの予選タイムは1分55秒357、午前中同様に5秒以上の差がある。



メカニックは「セッティングの方向性が見えない」とつぶやく。アンダーステア改善のため、セオリー通りの修正を施したが旨いかない。これまでVEMACで数々の戦績を残した R&D SPORT にとって、3つのデフギアを備えるマシンには未知の部分が多過ぎるのが現状だ。翌日の決勝までに何をすべきか、監督の本島、ドライバーの山野、密山、そしてメカニックはミーティングを進めた。

なお、その後実施されたスーパーラップにより予選トップ・ポールポジションは、88号車 triple a ガイヤルド RG-3。62号車 R&D SPORT LEGACY B4は21番手グリッド、最後列から翌日の決勝をスタートすることになった。



www.rdsport.net



9月13日(日) 観客数:33,000人 / 天候:曇り
天候は曇り、午後に向け回復する見込みである。R&D SPORT LEGACY B4にとって初めての二日連続のサーキット走行となる。前日の予選後のミーティングで決めたマシンセッティングの方向性が吉と出るのか！？真価の問われる練習走行が始まる。

<練習走行>

8:30、練習走行が開始された。コンディションは昨日の雨の影響でウェット。まずは山野がマシンに乗り込みコースに向けてスタート。山野は周回を重ねる。5周目2分00秒426 をマーク。練習走行300クラストップタイムは1分55秒078。5秒以上のタイム差は変わらないが、マシンから来る感触は改善の兆し。セッティングの方向性は悪くなかったようだ。

午後の決勝開始に向け、メカニックは僅かではあるが明かりの見える可能性にかけ、マシンセッティングを進めた。

<決勝>

いよいよこの瞬間が来た。

「R&D SPORT LEGACY B4」にとって記念すべき瞬間。そう、決勝デビューの時だ。チームは8分間のウォームアップ走行もセットアップに使う。マシンは一旦PITに戻り、スターティンググリッドに向かうその時を待った。各チームのマシンは一旦納まったPITガレージからゆっくりとメカニック達の手でPIT前に移動させられる。静まり返ったサーキットに、PIT出口開放1分前のアナウンス。全車一斉にPIT出口へと向かう。PIT出口開放のアナウンスと共にマシンはコースへ、そして山野もスターティンググリッドに向かった。



13:59 フォーメーションラップ開始1分前のアナウンス。

グリッドに並ぶマシンが一斉にエンジン始動、サーキット中にエンジン音が響き渡る。

14:00 フォーメーションラップ開始。

セーフティーカーの後に続き、各マシンは隊列を維持、1周のフォーメーションラップに入った。

山野も隊列の最後尾から決勝スタート、グリーンシグナルのその瞬間に向けてマシンをユックリと進めた。最終コーナーを立ち上がり、前方の500クラスは決勝スタートが切られた。そしていよいよ記念すべき瞬間、300クラススタートの合図。山野は最後尾からアクセルを一杯に踏み込み1コーナーに向かった。決勝スタートだ。



www.rdsport.net

トップ集団で若干の順位の入替わりがあったが、アクシデントは無くクリーンなスタートが切られた。トップ集団のラップタイムは 1分47秒前後。これに対し「R&D SPORT LEGACY B4」は 1分51秒前後、4秒程度のギャップだ。当然このタイムではレースでの勝負はできない。チームとしては、決勝デビューとなったこのレースでマシンの走行データを出来る限り収集したい。山野はコンスタントに1分50秒後半から51秒前半のタイムで周回を重ねる。各チームが30周前後でドライバーチェンジ、タイヤ交換、給油を行う中、35周を過ぎても山野はPITに入らない。当初の予定では38周まで引っ張る予定だったが、その周回も超え40周目、PITに戻った。

ここでドライバーを密山にチェンジ、再びコースに復帰した。この時点でトップには1ラップ以上の差をつけられている。しかし今回は「R&D SPORT LEGACY B4」初めての实戦である。とにかく走り切りたい。密山は順調に周回を重ね、46周目この日ベストとなる1分50秒544 のラップをマークする。そして交代してから19周目にチェッカーフラッグを受け、「R&D SPORT LEGACY B4」の決勝デビュー戦を無事終える事となった。

大きなトラブルもなく、59周を無事走り終えた「R&D SPORT LEGACY B4」。残念ながらトップからは2周ラップされる結果となった。

しかし、決勝で走る事の出来なかった鈴鹿からは大きな進歩である。課題は山積みであるが、この2日間の走行、そして初のロングランにより、僅かではあるがマシンの行くべき方向性も見えてきた。まだまだレースで戦えるマシンでない事に変わりはないが、次のレースに向けやるべき事が見えてきた。次回は最終戦もてぎでのエントリーとなるが、R&D SPORT は2ヶ月の期間で進化させた LEGACY B4の姿を見せてくれる事だろう。トップ集団と勝負をする日が来るのもそう遠くは無いはずだ。

なお決勝結果は、最終ラップ、最終コーナーまでサイドbyサイドの激しいバトルを繰り広げたフェラーリ2台。そこから最後のストレートでパワーの違いを見せつけた81号車 ダイシン アドバン Ferrari がトップチェッカーを受け、2位が11号車 JIMGAINER ADVAN F430 3位が66号車 triple a ムルシエ RG-1 という結果となっている。



■本島監督コメント



ドライバーを含めチームみんなの力で何とか無事決勝を走り切る事が出来、やっと手探りで走らせていた車の方向性が少し分かって来ました。最終戦茂木に向けて出来る限りの対策を施し、良い結果を出せる様頑張りますので、皆さん応援宜しくお願い致します。



www.rdsport.net

■ 山野哲也コメント



完走出来てホッとしています。何事もそうであるように初めて行うプロジェクトにはリスクが伴うなかで、2戦目にしてしっかりチェッカーフラッグを受けることが出来たことを純粋に嬉しく思います。ただ課題はまだまだ山積みで安心は出来ません。ウェット、ドライ共にもっとスピードを上げる必要があります。ステアリングを握るパイロットとしてしっかり仕事をこなし、次の段階である『速さ』をレガシィに与えるため、チーム一丸となって課題をクリアしていきたいと思います。今回の富士も SUBARU ファンがたくさん訪れ、声援を送ってくれました。これだけ現地に足を運んでくれ、さらにテレビやインターネット、雑誌等を通じ応援してくれる世界中のファンの期待に応えるためにも”途絶えることのない努力”を続けていくことが私の使命だと感じています。

■ 密山祥吾コメント



今回は、予選・決勝ともにシッカリと走りきり、今後に向けたデータ収集作業が一番の目的だったと思います。予選・決勝の2日間でレインとドライの両コンディションを走る事が出来、大きなトラブルも無く、LEGACY B4 の良い所・足りない所をピンポイントで見つける事が出来ました。今後は LEGACY B4 に合ったセッティングを見つけ、早くトップ争いが出来るように精一杯頑張ります。

決勝レースの詳細に関しては SUPER GTホームページ <http://supergt.net/jp/>

またSUBARUモータースポーツニュース <http://www.subaru-msm.com/news/> もご覧ください

2009 年 9 月 18 日
SUBARU LEGACY B4
TEAM アールアンドデースポーツ
<http://www.rdsport.net/>



www.rdsport.net